第11回これからの北海道立近代美術館検討会議　議事録

日　時　令和５年（2023年）12月20日（水）　13時30分～14時30分

場　所　Ｗｅｂ会議システムＺｏｏｍ

出席者　別添「出席者名簿」のとおり

議　題　１　近代美術館の整備方法等の比較項目について
　　２　その他（報告事項）

議　事
（1）議題１　近代美術館の整備方法等の比較項目について
　ア　事務局から資料１に基づき説明
　　（特記事項）
　　・なし

　イ　質疑応答等（有・無）

　　（佐藤委員）
　　確認だが、資料１の１ページ「今後の進め方」中で、③知事公邸等が所在する区域への移転（移転新築）とあるが、この場合は公邸を全部壊してから、新しく建て替えるという認識で良いか。

　　（事務局）
　　近代美術館が知事公邸等敷地に移転する場合、知事公邸や宿舎などを壊した上で、どのような美術館ができるかを検討していくことを考えている。

　　（佐藤委員）
　　そうすると、５ページ目の「経済性」の「イニシャルコスト」の「解体する場合の費用」の中に、「近代美術館等」とあるが、近代美術館等の中に公邸等も含まれるということで良いか。

　　（事務局）
　　その通り。

　　（北村委員）
　　仮に移転新築する場合、現在の近代美術館の敷地をどのようにするのか。

　　（事務局）
　　移転した場合の現・近代美術館の敷地の活用方法については、まだ何も決まっていない。後ほど資料２でも出てくるが、来年度に策定を予定している、エリアの活用構想を検討する中で考えていくことになると思う。ただ、説明申し上げたとおり、可能性の話として、仮に民間事業者にこの敷地を貸すとなった場合に、どのくらいの収入があるのかを試算してもらうもの。

　　（北村委員）
　　もう１点、様々な比較項目で、どのような形で比較をしていくのかということで、リニューアル基本構想の今後の進め方で、改修・増築するのか、現地で建て替えるのか、あるいは移転新築するのかという３つの方法があるだろうということはいいが、その際の比較項目の中で、現在の「美術館の建築物としての歴史的・文化的な価値」、現美術館の活用可能性というのは、つまり、残すということを考えた場合の建物の価値を評価するということで良いか。３つの整備方法の考え方があるうち、「既存施設の活用」のみが飛び出て評価項目となっているように思えるが。

（事務局）
「美術館の建築物としての歴史的・文化的な価値」については、現美術館を活用するとした場合に、どのような効果があるのかを評価することを想定しており、例えば、現地新築の場合であれば、美術館を壊して新しく建て直すことが想定されるため、その際に「歴史的・文化的な価値」を損なう場合があるといった評価をすることを想定している。

（北村委員）
移築するにしても、増築するにしても、新築するにしても、現在の45年以上経っている建物を、まずは歴史的な、あるいは文化財としてどのように評価するのかということが必要ではないか。解体される場合にどのような損失があるのか、ないのかということを評価するという理解で良いか。

（事務局）
その通り。

（佐藤委員）
比較項目について、１ページ目の下、「道民の意見」の４つ目に、「知事公館、三岸好太郎美術館と一体的に文化・芸術を発信するエリアになってほしい」という意見があるとともに、２ページ目の「道の重点政策」の中に、「道民・専門家の意見を踏まえ、知事公館や近代美術館を含めたエリア全体の活用策を検討」とある。従って、このような観点を反映させるような比較項目があっても良いのではと感じた。例えば４ページ目の「３比較項目（案）」の「エリアの機能」の中に、「周辺環境との調和」という項目や「アクセス・動線」という項目があるが、「エリア全体の一体化」という項目があると「道民の意見」や「道の政策」を反映することができるのではないか。

（事務局）
「エリア全体の一体化」を評価する項目については、「周辺環境との調和」や「アクセス・動線」の項目において、エリア全体で活用する場合にどのようなメリットがあるか等を評価できるよう検討している。

（佐藤委員）
「他のパブリックスペースとの連動性が生まれる」の中に含まれるということで良いか。

（事務局）
その通り。

（佐々木亨委員）
比較項目で「エリアの機能」、「経済性」、「環境性」とあり、「経済性」はほぼ数字で出てくるところで、「環境性」は分からないが、どちらかというと定量的であるような気がする。定量のほうが説明する上ではとても便利だが、定量では計れない定性的なものが抜け落ちてしまうと、形式的な比較議論になってしまう恐れがあるので、例えば、社会的なインパクトとして、どの方法が近代美術館のハードもソフトも変わったと訴えられるのかという部分や、働くスタッフのモチベーションへの影響など、３つの整備方法のうちどれになろうとも、この整備方法を採用することで、利用者やスタッフがどのように変わるのかといった定性的なことを大事にするような項目があっても良いと思った。

（事務局）
「経済性」は定量で評価が出てくる部分も多くあると想定している。また、「エリアの機能」の評価は定性的な部分が多くなると想定しているところであり、いただいた御意見を参考に今後検討していく。

（菊地委員）
３つの整備案があり、それぞれを比較項目で比較していくということだが、これだけの項目を比較するとなると、この３つそれぞれの案を具体的に検討してから比較することになるのか。具体的な改修方法などを計画しないと、ここまでの項目で比較できないのではと思うが、どのくらいの整備プランをもとに比較するのか。

（事務局）
いわゆる配棟計画のようなものではなく、構想段階におけるある程度実現性のある規模をベースとして評価することを考えている。

（菊地委員）
ランニングコストやイニシャルコストについては、私も今、白老で、美術館ほどの規模ではないが、改修工事をやっているので分かるが、少しスペックが違うだけで大きくコストが変わる場合がある。特に定量的に評価をする際には、できるだけ、３つの整備方法それぞれの具体的な整備プランを作ることが望ましい。公共工事でよくあるのが、これくらいコストがかかると思って始めたが、蓋を開けると倍ぐらいになってしまう等、大阪万博の問題もあるので、可能な限り、現実的な数字を出せるよう取り組んでほしい。
また、３つの整備方法のうち、「既存施設の活用」と「現敷地での建て替え」は今の場所で改修・増築するか、新築するかというアイデアだが、「知事公邸等が所在する区域への移転」は現在の美術館建物を解体して、隣の敷地に移転するということで良いか。

（事務局）
現在の美術館を解体すると決まっているわけではなく、仮に解体するとなった場合のコストを把握するため、「経済性」の項目としているところ。

（菊地委員）
そうすると「知事公邸等が所在する区域への移転」に関して言えば、もしかするとまだバッファー（余裕）があると考えられるが、例えば、今の美術館を改修しながら、隣の敷地に増築することも考えられるのか。色々なパターンが考えられる。今の美術館は歴史的にとても貴重なものだと思うが、用途が決まっていないので、仮に今の美術館も新しい美術館の一機能として、改修して使い続けるということも、もしかしたら考えられるのか。また、改修しながら隣の敷地に新築を建てるというアイデアになる可能性もあるということか。

（事務局）
現段階では今の建物を改修して隣の敷地も使うところまでアイデアは及んでいない状況。３案を比較するにあたって、まずは規模感や配置の状況について委託業者に算出してもらっているところであり、もし改修の場合、今の敷地では収まらないとなった場合は、隣の敷地も活用するということは考えられるが、今の時点では、大きく分けて、現在美術館がある敷地で改修するパターン、現在の美術館を壊して建て替えるパターン、隣のエリアに新しく移転新築するパターンに着目している。

（菊地委員）
あくまで、比較するためのパターンとしてこの３つの整備方法を出しているだけであって、比較した結果、もしかしたら既存の場所も美術館として使いつつ、新しく建てるということになるかもしれないが、どうなるかまだ分からないということ。あくまで想定されるパターンを３つ抽出して比較してみるという段階に留まっているということで理解した。

（佐々木宰委員）
３つの整備パターンとたくさんの比較項目があり、おそらく比較項目の中には、３つとも評価が同じであろうと思われるものと、パターンによって評価が違ってくるというものもあろうかと思う。気になるのが、工期というか、今の近代美術館のサービスが途切れる期間がどのくらいあって、サービスが途切れることにより、文化的な状況や他の社会教育施設、札幌市や北海道の文化的な活動がどれくらい制限されるのか。今ある近代美術館のサービスを提供ができない期間がどれくらい生じて、どのような影響があるのかというような観点があると良い。例えば、他の社会教育機関との関係や学校教育への影響といったことを考えていただきたい。このような影響が無いと、美術館が無いと困るという理由にはなってこない。今あるサービスが途切れることによる影響や、整備パターンによる工期の差、あるいは配置によってどう影響するかということについても、項目として入れてほしい。
ただ、先ほどから色々な話が出ているように、様々な要素が絡み合っているため、例えば工期が変われば、別の項目の評価が変わるだとか、パターンが変わればえらく変わる、あるいは最終的な判断があればまた変わるといったように、大変複雑な形になるかもしれないが、サービスを提供できない期間をどうするかという視

点があるとありがたい。

（事務局）
サービスが途切れる影響については、「エリアの機能」の項目の中に、「休館期間」を設けているため、年数とともにどのような影響があるのかという視点で評価できるか、業者とも相談しながら検討したい。

（２）議題２　その他（報告事項）
ア　事務局から資料２、３に基づき説明
（特記事項）
・なし

イ　質疑応答等（有・無）

（佐々木亨委員）
資料３のイベントについて、有意義なイベントだと感じた。目的について、エリアの活用検討の機運醸成ということは大事だと思うが、３連休の３日間で実施したとはいえ、クイズスタンプラリーの参加者数が114名というのは余りに少なくないか。広報のやり方も資料に記載があるが、当初想定していた数なのか。

（事務局）
昨年度も近代美術館リニューアル基本構想（中間報告）のビジョン・ミッションの作成にあたりオープンハウスを実施しており、その際は近代美術館に着目していたが、今年度はエリア全体に着目した意見を聴取するために実施したところ。クイズスタンプラリーは初の試みとして、自分たちで無料アプリを活用して実施しており、過去の実施経験が無いため、どれぐらいの参加者が集まるか未知数であったが、348名453件の御意見をいただくことができた。昨年のオープンハウスでは約700件の御意見をいただいているが、昨年と比べると、今年は冷え込んだことや、昨年は法隆寺展の実施期間中に実施しており、そもそもの来館者数が多かったこともあるため、一概に比較することは難しいが、そこまで少なくはないと認識している。

（佐々木亨委員）
昨年のイベント実施時も近美では足立美術館所蔵作品の展覧会を開催している。

（事務局）
法隆寺展と比べると、一日の来館者数が全然違うことを踏まえると、おおむね多くの方から御意見はいただけたと考えている。

（佐々木亨委員）
昨年実施したオープンハウスも委託して実施しているのか。

（事務局）
業者に委託して実施しており、今年も同じ業者に委託して実施している。

（佐々木亨委員）
これからも機運醸成のイベントをやっていくことが大切。「時期」や「やり方」などを毎回振り返り、修正を加えていくと、より少ないコストでより多くの情報を得られるようになるため、振り返りをして来年度に繋げていけたらいいと思う。初めての試みはすぐ上手くいくわけではないので、一回一回の反省や修正が大事であると思う。

（事務局）
来年の実施は未定だが、開催する場合は、時期や気温、展覧会との連動等の反省点を踏まえ考えていきたい。

第11回これからの北海道立近代美術館検討会議　出席者名簿

○ 構成員

（敬称略、五十音順）

所　　属	職	氏　　名	備　　考
株式会社ｈａｋｕ	代表取締役	菊地　辰徳	
北海道大学	名誉教授	北村　清彦	
北海道教育大学釧路校	教　　授	佐々木　宰	
北海道大学大学院文学研究院	教　　授	佐々木　亨	
前札幌芸術の森美術館	館　　長	佐藤　友哉	

○ 事務局

所　　属	職	氏　　名	備　考
北海道教育庁	生涯学習推進局長	村上　由佳	座長
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課	課　　長	菅野　泰之	
	道立近代美術館担当課長	佐藤　昌彦	
	課長補佐	田中　猛之	
	係　　長	福士兼太郎	
	主　　任	宮下　直之	
	主　　事	中林　恭良	
北海道立近代美術館	副 館 長	松田　俊也	
	学芸副館長	中村　聖司	
	総務企画部長	熊澤　栄司	
	学芸部長	五十嵐聡美	
	学芸統括官	土岐美由紀	
	総務企画課長	富田　拓貴	